![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成２７年６月号　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（平成27年6月19日発行）

素直な子どもに育てるには

　・・・先月の続きです。

　うそをつくのは，子どもが生まれつきもった才能ではなく，親を安心させ，親に嫌われないための防衛本能です。やがて，親に限らずいろいろな人に，いろいろな場面でうそをつくのはその時々の人々に嫌われないためです。あるいは，真実がばれることによって生じる自分の不利益を幼い頃からの学習によって習得してきたためです。ですから子どもがうそをつくにはそれなり（子どもなり）の理由があるし，つかなければならない環境があると思わなければなりません。私にそう言われたからといって，親が態度を変えることはそうはないでしょうし，またしかたのないことです。しかし，子どもがうそをついた時に，知らないふりをしていたり，ただちに感情的に怒るだけで終わりにしていては，また繰り返されるということです。うその根本の原因は何かということに関心をもつことがうそ防止のはじまりです。様々なうそがありますから具体的にこの紙面では話しきれませんし，また，その具体の根拠をきちんと話せる知識もありません。私の経験から言っていることですので絶対ということもありません。もっとも，「絶対に」などと言う専門家はいませんし，言ったとしたら見識を疑わなければなりません。

うそもつけないために行き場や逃げ場を失う子どももいます。親や身近な人の期待に応えようとし，また，きちんと叱られた経験が希薄で自尊心ばかりが大きくなってしまった場合など，正直に自分の間違いを認めることができず，また，親の期待を裏切りたくないという思いが強い場合などです。そういう状況で少し大きな集団（学校など）の中に入った時に，その中で起きる様々なもめ事や判断の難しい場面にあって，うまく自己を表現できずに不適合状況に陥る子どもがいます。自分を偽って表現できず，かといって自尊心が邪魔をして正直に自己の迷いを誰にも相談できない状況です。必要以上に背伸びした心理状況に陥ってしまい，小中学校での不登校の要因にもなっています。そういう時にうそをついて逃げられるくらいになればいいのになあと私は思ってしまうことがあります。

「うそつき」も困りますが「うそをつけない（自分を偽れない。他に対して表現しようと思うとどうしてもうそっぽくなってしまうと本人が感じてしまうなど。）」のも，実は大いに困ることなのです。結局「ほどほど」が社会の中では大切なのだとこの歳になると思うのですが，果たしてそれが正しい考え方なのかどうかはわからない，のではなく，どうでもいいと思えることもあります。

結論，一人か二人の親の価値基準がその他大勢のそれと違っていたり，ずれていたりすることが多いと，やがて子どもが自我に目覚めた時，社会や世間の価値観とのずれに悩んだり，戸惑ったりします。世間にはいろいろな価値観があり，いろいろな人がいるという当たり前の実態をよく見ながら，よく感じながら成長する必要があるわけです。そういう体験を数多く幼児期からすることが，社会の中で生きていかなければならない「人間」にとって重要だと感じます。

いろいろ言いましたが，善隣幼稚園の保護者の皆様は，私から見ればここに述べたような困った状況ではないように思います。一般的な話をしただけで，あまり役に立たない話だと思われることは今回に限ってはうれしいことです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（園長　平澤　正則）